

第 18 回防災文化講演会「気仙沼で 3.11 を伝えていく」を開催しました(2017/05/27)

テーマ：震災伝承

URL：<http://irides.tohoku.ac.jp/organization/kesenuma/kouenkai.html>

5月27日(土)に、気仙沼中央公民館にて、「第18回防災文化講演会『気仙沼で3.11を伝えていく』」(主催：東北大学災害科学国際研究所，共催：気仙沼市)を開催しました。当研究所は平成25年7月に「気仙沼市と国立大学法人東北大学災害科学国際研究所との連携と協力に関する協定」を締結するとともに、気仙沼分室(通称：気仙沼サテライト)を気仙沼市内に設置して、防災・減災や復興の推進に連携して取り組んでいます。その活動の一環として、防災に関する講演会を年に数回開催しています。

第18回を迎えた今回は、同WG長の川島秀一教授(人間・社会対応研究部門)の冒頭挨拶の後、「震災伝承」をテーマに4つの講演と総合討論を行いました。講演では、「民」の立場として気仙沼観光コンベンション協会・熊谷俊輔誘致推進課長から、「気仙沼における現在の3.11の伝承」と題して同協会で行われている語り部活動について、「公」の立場として、気仙沼市震災復興企画課・尾形庄衛主査から「気仙沼におけるこれからの3.11の伝承」と題して、震災遺構(旧気仙沼向洋高校)と隣接して整備される岩井崎プロムナードセンターについて、「学」の立場として弊所の佐藤翔輔助教(情報管理・社会連携部門)から「宮城県における3.11伝承の現在」と題して、宮城県内の震災伝承の現状を、「先行事例」の立場として中越防災安全推進機構の山崎麻里子研究員から「先行事例における現在の震災伝承」と題して中越地震の被災地における震災伝承の事例が紹介されました。4講演の後には、登壇者と参加されたみなさんによる質疑応答・会場討論と、最後に、気仙沼市の庄子裕明危機管理監から、閉会の挨拶がありました。

総合討論では、コメンテーターを川島秀一教授が、コーディネーターを佐藤翔輔助教がつとめ、参加者との活発な議論が行われました。当日の司会は、笠原好之助教(災害医学研究部門)がつとめました。35名もの方々にご参加いただき、盛会のうちに終わりました。



冒頭挨拶・川島秀一教授



講演①・熊谷俊輔氏



講演②・尾形庄衛氏



講演③・佐藤翔輔助教



講演④：山崎麻里子氏



会場討論の様子

文責：佐藤翔輔(情報管理・社会連携部門)